

合体意見文を書こう

国語 国語総合 第1学年
石川県立津幡高等学校・教諭

1 事例の概要

本校の生徒の多くは文章を書くことに苦手意識を持っている。どのように書くかということ以前に、何をどのように考えればよいかという段階でつまづいている。「考える」という大切な過程を避けているため、言葉にならない心のひっかかりや胸のもやもやが短い単語に置き換えられてしまい、そのことによって他者との間に誤解を招いたり、共感する温かい心の交流が失われたりする傾向があるように思われる。

一方、生徒間では携帯電話によるメールのやりとりが頻繁に行われ、豊かなコミュニケーションがなされているように見えるが、実は相手を突き刺すような冷たい言葉のやりとりでお互いを傷つけ合ったり、各自がそれぞれ勝手な話題を投げ合うだけで、誰も拾うことを考えていなかったりするような状況もしばしば見受けられる。

このような状況の中で、しっかりとした文章を書くということはしっかりと考えることなのだとということを実感させ、さらに文章によって人の心を動かす喜びを体験させることで、書くことへの抵抗を減らし、ものを考える手段として書くことを利用する力を育成したいと考えた。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・現代社会を生きるにあたり、避けられない課題について深く考察し、自分の考えを持つ。
- ・他の人の主張を正確に理解する。
- ・筋道立てて考えをまとめ、説得力のある文章を書く。

(2) 指導上の工夫点

①考えさせる工夫

納得いくまで考えることを避け、「何となく・・・と思う」とごまかすことで思考をストップさせてしまう傾向があるのは、自分に自信がないために内面にある想いを外へ発信する勇気がないためではないかと考える。そこで、まずは○△×で考えを表すことから始め、少しずつ段階を経て文章を練っていくことで、自分のペースでじっくり自分の考えをまとめられるようにする。

②「読み・書き・考える」を繰り返させる工夫

生徒に「これは何だろう、なぜだろう、これでいいのだろうか」と問いかけ、正面から粘り強く考える姿勢を求める。生徒は、身近な友人が同じ課題にどのように取り組みどのように表現するかということには非常に興味を示すので、それぞれの書いた文の良い点を見出し、さらに引き出していくという関わり方で、それぞれが自信を持って意欲的に考え続けられるようにする。

③全員に取り組みさせる工夫

キーボードのボタン一つで操作できる記号化された言葉のやりとりがあふれている現在、原稿用紙を前に丹念に言葉を紡いでいく作業は生徒にとっては面倒なものであり、全く取り組む意欲を持たない生徒もいる。そこでグループ学習を取り入れて、お互いの意見を尊重し、共感し、良い点を認め合うかたちで展開し、班員全員の意見を入れた合体意見文を創るというゴールに向けて、脱落者がでないような授業を展開する。

3 指導の実際

- 1時 「ものに頼らず、心で接しよう」という文章を読み、全員が一文ごとに○（賛成）△（どちらでもない）×（反対）の印を付ける。教師がとりまとめ、○×の双方がついた文をピックアップする。
- 2時 班に分かれて、その中からテーマとして取りあげる一文を選ぶ。テーマについて各自150字で意見文を書く。
- 3時 班員の意見を互いに読み合い、他の生徒の良いところをピックアップして、それをもとに各自で400字程度の意見文をつくる。
- 4時 班員の意見を合体させた合体意見文（600字程度）を、教師の音読で聞き、全員が評価プリントを用いてそれぞれの作品を採点する。
- 5時 評価の分析をする。さらに、評価の良くなかった2作品について、全員が2つに分かれ、より説得力のある作品になるように工夫を加える。（詳細は指導案）
- 6時 各自が考えた具体例を評価し合い、良い文章の条件とは何か、再確認する。

C-1 指導案

C-2 意見文が完成するまでの過程

C-3 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ①これまでの授業形態では、書くことの好きな生徒は積極的に書き、書けない・書く意欲がない生徒は全く取り組まないということが多く、良い作品の紹介をすると、どうしても同じ生徒のものに偏った。しかし合体意見文を創るという目標を持たせることで、意欲の差はあれ全員に取り組ませる事に成功した。またグループで一つの作品を作り上げる達成感を味わう機会を与えることができたのは良かったと思う。
- ②班員の意見文を読み合いながら自分の意見を創っていくという過程で、個人的な思いこみで主張するのではなく、他者の意見にも目配りして、誰が聞いても納得するような文章を書く必要があるのだということを理解したようだ。具体例をあげることや論理的に書くことについては、教師の指示がなくてもできるようになった。
- ③それぞれの意見文に対して、共感し、良い点を認め合うということを大切にした授業だったためか、とても明るく和やかな雰囲気が一貫してクラスに漂っていたように思われる。評価プリントの採点やコメントを見ても、良い点を見つけようという姿勢がうかがわれた。

(2) 課題

- ①班員の意見をまとめる段階では、予想以上に高度なテクニックが必要であることがわかり、教師がその箇所を引き受けざるを得なくなってしまった。今後このような取り組みを行う場合は、複数の文章をつなぎ合わせる力を生徒につけていかなければ、真の意味での班員だけの意見文というものにはならないであろう。
- ②それぞれが書いたものを班で読み合い、話し合い、一つのを創っていくという流れを想定していたが、話し合う力をトレーニングしていないので、どの班でも活発な意見交換が行われていなかった。班構成の問題もあるだろうが、今後意見を述べ合う力を育てることで、この取り組みがより実りあるものになっていくと考える。